

# 1210あかりんアワー 教員が研究の楽しさを語る 第114回(12/1)正木治恵先生推薦ブックガイド

※掲載されている本はL棟2階 あかりんアワーのコーナーに配架されます。

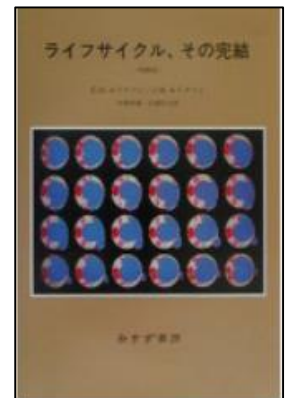
## Book1

### ライフサイクル、その完結 増補版

著者：E.H.エリクソン, J.M.エリクソン [著]；村瀬孝雄, 近藤邦夫訳

出版：みすず書房, 2001

コメント：精神分析家で発達心理学者の著者が、長年にわたって蓄積してきたライフサイクル論を完成させた名著です。生まれてから死ぬまでの人間の一生を8つの異なる発達段階として論述しています。人間の成長・発達の観点から「老年期」を理解する一助になります。



## Book2

### エイジレス・セルフ: 老いの自己発見

著者：シャロン・R・カウフマン[著]；幾島幸子訳

出版：筑摩書房, 1988

コメント：米国の大学院の博士論文（医療人類学専門）として書かれたもので、研究対象となった70歳から97歳の高齢者60人の話をもとに考察をすすめています。「老人とは、こうあるものだ」というステレオタイプな捉え方を覆す精力的な論考で、人間は生あるかぎり何かを創造しつづけていくというポジティブな観点を提示しています



## Book3

### ケアの本質: 生きることの意味

著者：ミルトン・メイヤロフ著；田村真, 向野宣之訳

出版：ゆみる出版, 1987

コメント：「一人の人格をケアするとは、最も深い意味で、その人が成長すること、自己実現することをたすけることである。」と始まる本書は、人間理活動のひとつである「ケアすること」について哲学的考察を展開しています。「ケアは、ケアする人、ケアされる人に生じる変化とともに成長発展をとげる関係」という論述は、高齢者のケアを理解していく一助になります。

